山下龜三郎 実業家。{山下汽船}を創立、戦時需要を利用して"三大船成金"、代表的政商となる一方、育英活動に尽力した。

やましたかめさぶろう

大政奉還・1867 = 伊予国宇和郡喜佐方村で、庄屋山下源次郎の四男に生まれる。母は敬子。7人兄弟の末子。

明治維新・1868 = 1歳 :

明治6年政変 1873 = 6歳 :

三つの内乱・1876 = 9歳 :

明治14年政変 1881 = 14歳 : 南予中学校を中退し出奔、暴風雨で知人の家にいると、母の使者が現れ凱旋できるまで帰るなどと言われ、
新体詩抄・1882 = 15歳 : 京都で、小学校助教となる。
山本覚馬と出会って薫陶を受け、

内閣発足・1885 = 18歳 :

帝国大学始・1886 = 19歳 : 上京して、明治法律学校に入るが、

初の対等条約 1888 = 21歳 : 中退、富士製紙会社に入るも長続きせず、

帝国憲法発布 1889 = 22歳 :

転々とする間、

大本教・1892 = 25歳 : 結婚。山下商店を始めるも、

日清戦争始・1894 = 27歳 : 倒産し、横浜の竹内商会石炭部に入り、

八幡製鉄始・1897 = 30歳 : 同商会を継承して独立し、合資会社{横浜石炭商会}と改称する。

日比谷公園・1903 = 36歳 : 英国船を購入して海運業に進出、

日露戦争始・1904 = 37歳 : *<日露戦争>の御用船徴用で海運業者としての地歩を築き、

日露戦争終・1905 = 38歳 :

大逆事件判決 1911 = 44歳 : 神戸に支店を設置するとともに、山下汽船合名会社に改組した。

明治天皇没・1912 = 45歳 :

第一次大戦始 1914 = 47歳 : *<第一次世界大戦始>で海運好況となると、帝国大学や高等商業出身の人材を多数採用して社業を積極的に
拡大し、日本商船も合併して、勝田銀次郎・内田信也とともに"三大船成金"と称せられるに至った。

21ヶ条要求・1915 = 49歳 : 石炭部門を分離して山下石炭株式会社を設立、

ロシア革命・1917 = 50歳 : 山下汽船株式会社に改組。故郷に山下実科高等女学校を設立。

国内外30余カ所に支店出張所を設置するとともに、戦景気下での海外航路運航の経験を生かし、インド・南洋・華南などアジア各地に航路を開設。

大暴落・1920 = 53歳 : 母の故郷三瓶町に、第二山下実科高等女学校を設立。山下石炭を山下鉱業と改め、

原敬首相暗殺 1921 = 54歳 :

水平社結成・1922 = 55歳 : 山下汽船と合併して山下汽船鉱業株式会社とした後、

護憲三派圧勝 1924 = 57歳 : 山下汽船株式会社と改称した。Kラインと協力して豪州定期航路の開設に成功、同航路の海運同盟への参加
を認められ、定期船部門への進出を本格化し、戦後不況で備船料の低下した海運市場で、他の船主の船腹を
積極的に備船して航路経営を展開する不定期船オペレーターとして急成長、

円本時代始・1926 = 59歳 : *百t配船を実現して、日本最大の備船主となる。その後も中古船の備船を中心に巧みな備船政策に基づいた
小口貨物輸送に力を発揮して、三井物産船舶部・川崎汽船・国際汽船・大同海運と並んで社外船大手五社の
一つに数えられるに至る。

海軍軍縮条約 1930 = 63歳 :

満州事変・1931 = 64歳 :

昭和不況下でも、古船中心の備船主義を継続するとともに、

国際連盟脱退 1933 = 66歳 : ペルシャ湾、

帝人疑獄事件 1934 = 67歳 : アフリカ、

日中戦争始・1937 = 70歳 : ニューヨーク・南米・北米西岸の各遠洋定期航路の開設など、積極的な航路経営を展開し、

第二次大戦始 1939 = 72歳 :

大政翼賛会・1940 = 73歳 : 私財を投じて、のちに桐朋学園になる財団法人山下育英会を設立。

日米開戦・1941 = 74歳 : 第一山水中学校を設立。所有船55隻46万tにのぼり、日本郵船・大阪商船に次ぐ船主に成長。

活動はさらに、財界から政界に広がり、扶桑海上火災保険・浦賀船渠・国際汽船・北鮮林業・阪神築港・
大日本兵器などの会社に関わったほか、中野正剛の東方会の有力な資金提供者で、代表的政商と称され、

創価学会検挙 1943 = 76歳 : 東条内閣の内閣顧問となり、経済統制の円滑な運営に協力、

年金+総武装 1944 = 77歳 : 行政査察使の勅命を受け大陸・内地間輸送、瀬戸内海海上輸送に関する行政査察などを行なったが、病を
得て解任され、没した。

インターネット、